①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・合同な三角形をかくための3つの方法を理解している。

○既習とつなぐ見方・考え方

・合同な四角形をかくには，どの辺の長さや角の大きさがわかればよいかという見通しをもつことができる。

教材研究ノート№5-B-4

Ａ　　　　　Ｂ

ｃ　　　　　　Ｄ

≪学習問題≫

四角形ABCDと合同な四角形をかこう。

≪定着・活用問題≫

授業計画･実施記録

主眼

≪学習問題≫

②見通し:：合同な四角形をかくにはどうしたらよいか。

→対角線をひいて，2つの三角形に分けて考えればよい。

②学習課題：四角形ABCDを2つの三角形に分けて，三角形の作図をもとに，合同な四角形の作図の仕方を考えよう。

③個人追究: 辺の長さや角の大きさを使って，合同な四角形をかく。

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

④共同追究前半（解法の比較検討）

「どの方法にも共通していることはなんだろう？」

→「どれも，合同な三角形のかき方が基本となっている。」

④共同追究後半（思考を深める）

「4つの辺の長さがわかっても，合同な四角形をかくことはできないのか。」

→「辺の長さだけでは，

形も大きさも決まらない。」

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・三角形が1つにきまれば，四角形の3つの頂点が決まるから，残りの頂点を決めればよい。

・合同な三角形のかき方が基本となっている。

⑥定着･活用問題

下の図のような，①平行四辺形や，②ひし形をかきましょう。

①

 5 5

 6

1. 4

60°

 4

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・四角形に1本の対角線をひくと，2つの三角形の分けられることに気付かせ，合同な四角形をかくには，三角形のかき方にもう1つの頂点が決まればよいという考え方に着目させたい。

・単元を通して，作図の技能の習得だけにならないよう，論理的なつながりや根拠をもって，図を活用して自分の考えをわかりやすく説明させることで，思考力・表現力も育てたい。

【板書計画】